




病害虫発生予察情報予報第 10 号 (1 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		1月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	早生マルチ	並	 タマネギ べと病 一次感染株
		中晩性	並	
		1. べと病 一次感染株は速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出して処分する。		
施設果菜類	1. 病害全般 (灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内の結露を防ぐ。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせることで防除を行う。			
イチゴ (本圃)	ハダニ類		やや多	 ハダニ類
	うどんこ病		やや少	
	灰色かび病		やや少	
	アブラムシ類		多	
	1. ハダニ類 先月と比較し、発生が増加した圃場が散見される。薬剤防除の際は、5~7日間隔で系統が異なる薬剤を組み合わせる。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は殺ダニ剤による防除を行う。(詳細は、令和3年10月29日付け病害虫対策資料第11号参照)。 2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。(導入可能日数は防除のてびき P526~P529 参照)。			
キュウリ	べと病		やや多	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病		やや少	
	褐斑病		並	
	アザミウマ類		やや多	
	コナジラミ類		やや多	
1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 作期の後半の圃場でアザミウマ類やコナジラミ類の発生が多い。これらの虫はウイルス病を媒介するため、植え替え後も発生状況に注意し、初期防除に努める。また、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。(コナジラミ類についての詳細は、令和3年10月29日付け病害虫対策資料第10号参照)。				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	1月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
トマト	葉かび病	やや多	 黄化葉巻病 黄化病
	灰色かび病	やや少	
	コナジラミ類	並	
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を徹底する。		
アスパラガス	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 これら病虫害を次作に持ち越さないため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。		
キク	白さび病	やや少	 白さび病
	アザミウマ類	やや少	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	やや少	
	ハモグリバエ類	並	
	1. アザミウマ類 施設内外の雑草は、本虫の発生源となるため除去する。また、次作での発生を抑えるため、定植前～定植時の粒剤施用を実施する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（2ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

1月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する1月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和3年12月16日）を基に、「気温：平年より低い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における1月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	50	30 (5.8℃)	20	低い
降水量	40	30 (54.1 mm)	30	並

Ⅲ. 1月の予報

タマネギ

定期調査 19 圃場、防除員 4 圃場
調査日：12月14～15日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

【早生マルチ】発生量：平年並

【中 晩 生】発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1、図2)

【早生マルチ】 発生株率：0% (平年0%、前年0%)、平年比：並 (±)

【中 晩 生】 発生株率：0% (平年0%、前年0%)、平年比：並 (±)

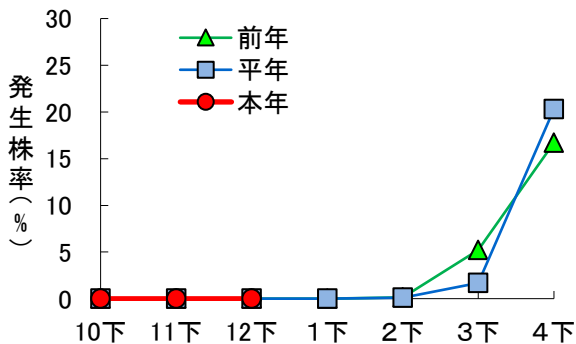


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

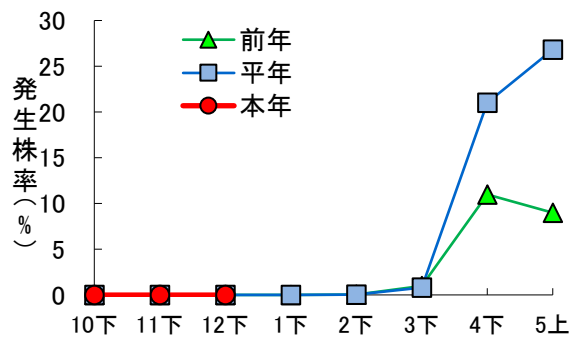


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 圃場の菌密度

平成25年以降、発生株率・発生圃場率ともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。
(±~+) (図3参照)

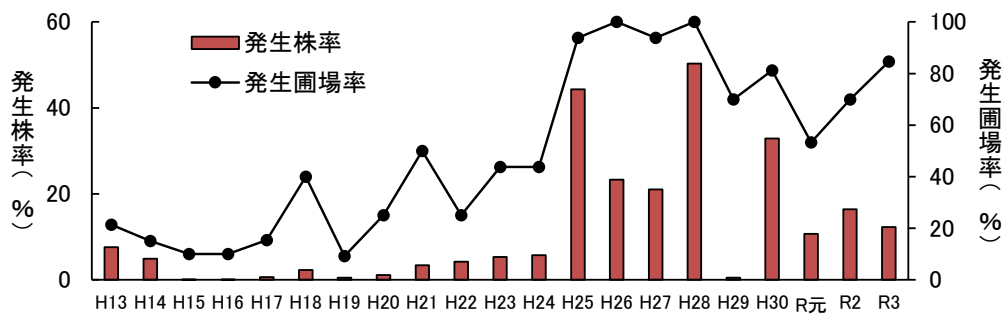


図3 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

(3) 1月の気象条件

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：12 月 9～17 日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：19.1%（平年 13.3%、前年 37.5%）

平年比：やや多（±～+）

(2) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照。

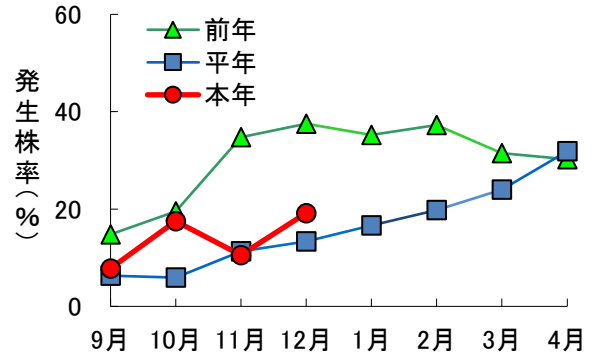


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：0%（平年 5.8%、前年 0%）

平年比：やや少（-～±）

② 1月の気象予報

降水量が並で、並発生の条件（±）

(2) 防除上注意すべき事項

(1) 約 10～14 日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。

(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

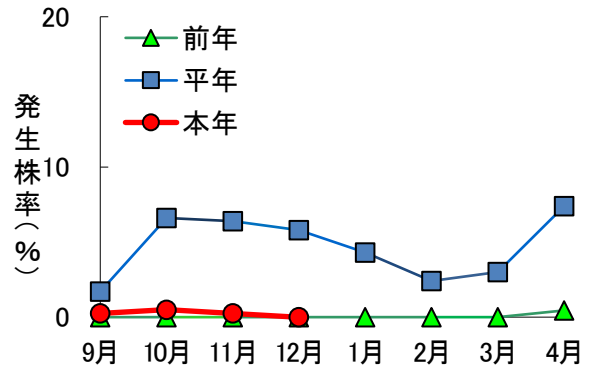


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：4.8%（平年 1.0%、前年 4.8%）

平年比：多（+）

(2) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P526～529）。

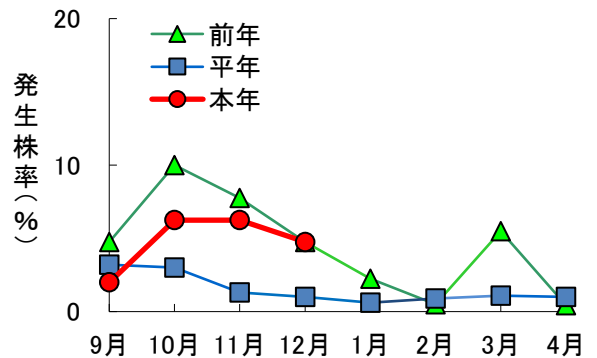


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

定期調査3圃場、防除員2圃場
(8月定植:3圃場、10月定植:1圃場、
12月定植:1圃場、植え替え準備中:4圃場)
調査日:12月13~16日



定期調査圃場の様子
(12月定植圃場)

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

- 1) 予報の内容
発生量: 平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図1参照)
発生株率: 30.0% (平年14.6%、前年10.0%)
平年比: 多<+>
 - ② 1月の気象予報
降水量が並で、並発生の条件<±>
 - (2) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項 (施設果菜類の項) 参照。

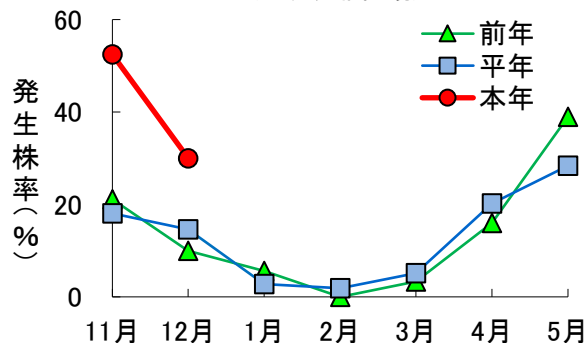


図1 キュウリベと病の発生推移

2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量: 平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図1参照)
発生株率: 24.0% (平年3.4%、前年2.8%)
平年比: 多<+>
 - (2) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

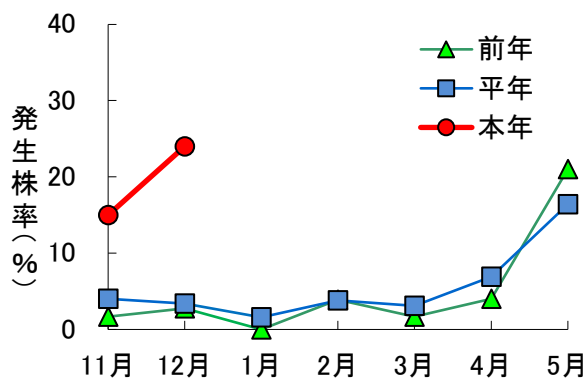


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量: 平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図1参照)
発生株率: 17.0% (平年5.0%、前年6.1%)
平年比: 多<+>
 - (2) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

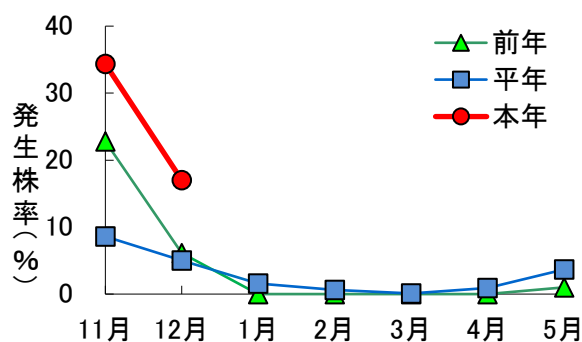


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査:6圃場、防除員4圃場
調査日:12月15~16日



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

[【概要に戻る】](#)

- 1) 予報の内容
発生量: 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

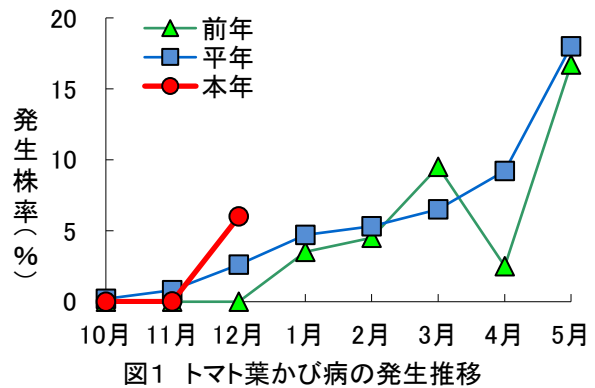
発生株率: 6.0% (平年 2.6%、前年 0%)
 平年比: やや多 (±~+)

(2) 12月の気象予報

気温は低く、降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項 (施設果菜類の項) を参照。



2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

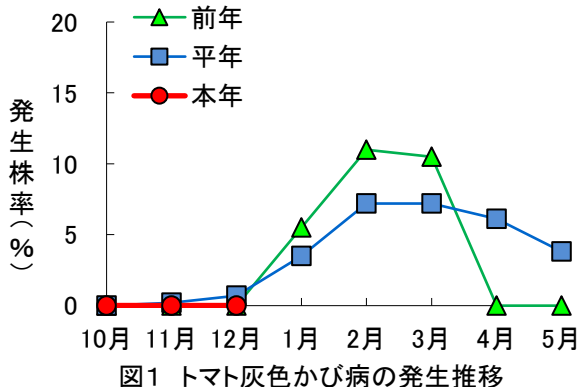
(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 2.5% (平年 3.9%、前年 0.5%)
 平年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



キク

定期調査: 8 圃場
 調査日: 12月13~15日

1. 白さび病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 5.5%、前年 0%)
 平年比: やや少 (一~±)

(2) 12月の気象予報

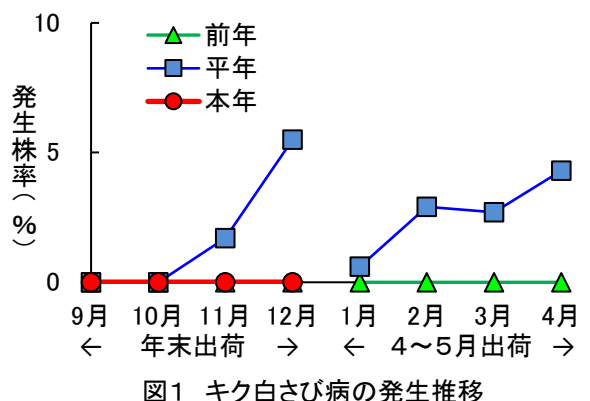
降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤は、葉裏や下位葉にもかかるように十分量を丁寧に散布する。



定期調査圃場の様子



連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
 ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html